

平成30年度第1回浦河町社会教育委員会議報告書

■日 時 平成30年6月26日(火) 18:30~20:30

■場 所 浦河町総合文化会館2階第3研修室

■出席者

<社会教育委員> 12名

津澤静子委員、吉瀬献策委員、大石恭義委員、野崎充委員、奥村桂祥委員、
高塚富士美委員、坂本廣子委員、三浦敦子委員、野上由佳委員、関口明子委員、
米山豊委員、向谷地悦子委員

【欠席委員】 8名

松本正美委員、伊藤勇二委員、菅正輝委員、谷川雅隆委員、奈良淳弘委員、
大野初美委員、小林光紀委員、久保珠里委員、

<教育委員会>

浅野教育長、和田社会教育課長、民部課長補佐、須甲主幹、菊地係長、那須野主査

1. 委嘱状交付

浅野教育長から社会教育委員へ委嘱状を交付

2. あいさつ

浅野浩嗣教育長より

3. 委員長・副委員長選出

委員長に津澤静子委員、副委員長に松本正美委員を選出

4. 自己紹介

各委員、社会教育課職員自己紹介

5. 説明

(1) 社会教育委員の役割について別紙資料1に基づき事務局より説明

(2) 社会教育委員の活動内容について別紙資料2に基づき事務局より説明

(3) 平成30年度社会教育事務事業について別紙資料3に基づき事務局より説明

・質問・意見等

(A 委員)

コミュニティ推進事業は、毎年行われているのか。

(事務局)

ほぼ毎年やっていたが、昨年度は実施していなかったので本年度は要望があれば実施したい。

(A 委員)

東町ふれあい会館は、平日午後は児童館の役割を担っているのが、PTAとして別な使い方ができればうれしいなと思っている。

(事務局)

検討する。

(4) 教育委員との学校訪問について

(教育長)

3頁の地域学校協働活動の推進ということで、いま国の方で学校制度の改革というか新たな取り組みでコミュニティスクール学校に学校運営協議会を設けて地域全体で学校の中で子どもたちの育ちと学校を応援していこうという、そういった体制が今全国各地でつくられていて、浦河でも進めようと思っている。それは学校教育サイドのひとつの新たなスタイルだが、それを社会教育、地域から支えていこうというのが、この地域学校協働活動という活動。このため、学校の方ではそういった運営に協議会をつくって実際にそれを地域でうごかしていくのには、この活動が必要になってくるので今後社会教育の方でこの活動を進めていくことにしている。地域の人たちがいろんなことで学校を支援していこうという活動なので、今年度われわれは今後どう進めていくかということでかたちをつくっていくので、また、そういった中でこの社会教育委員の会議の中でもご協議いただければと思っている。

教育委員の学校訪問は毎年やっているが、社会教育委員も入って一緒になって学校の子どもの様子や、学校から話を聞いたり、また、社会教育委員から見た話も学校とも交流できるかなと思っではじめて行きたいと思っている。教育委員4人、社会教育委員12人、昼間は難しいとは思いますが、4対5もしくは4対4で委員長とも相談しながら進めていきたいと思っている。

地域学校協働活動もこれらのできるので社会教育委員の方にも学校教育の方にご協力いただいてどういった形で社会教育の応援できるかなと子どもたちのためにということで、そんなことで今年から進めていきたいのでよろしくお願ひしたい。

6. その他

(B 委員)

4頁のプロスポーツ連携事業だが、べてる祭りが8月4日に予定しており、カーリングで銅メダルを取った吉田知那美選手をお呼びして講演会をしようとしている。日高管内にお住まいの方はぜひ吉田選手の講演の話子どもたちに夢や希望をあたえられたらなと思っている。なぜ吉田知那美選手かというのは、いまはLS北見に所属しているが、それ以前に違うところに所属していたころ、絶望的になった時にNHK出版の「安心して絶望できる人生」という本を読んで絶望から立ち上がったというエピソードがあり、ぜひ来ていただいて子どもたちに聞いてほしいと思っている。

べてる祭りの日にわらび座の方が来てストーリーを紹介させてくださいということで来てくださる。主役の人が来る予定であったが、代わりに音楽担当の人が松浦武四郎ミュージカルのナンバーソングを行っているので来てくださる。

○情報交換

(C 委員)

いろいろなご支援いただいているんな勉強させていただいているところで、今年4月に就任したところで実態がわからないところなので、ひとつひとつ自分自身が経験しながら皆さんの力をおかりしながら、学校のご支援のほどよろしくお願ひしたい。

(D 委員)

地域の人材とか色々なことをさまざまな人がやらないといけないのでそういう面では社教のほうから色々と、学校の体力測定など、子どもたちでは自分たちにはできないことを経験させてくれるので、ぜひいろいろ経験させてほしい。

(E 委員)

開かれた学校、社会に開かれた教育課程ということで、ふるさとキャリア教育ということで子どもたちに夢を育てるという意味でも、いろんな方々に学校を見に来ていただいて子ども達とふれあっていただくということを進めるので、それがコミュニティスクールとかも1学校区という単位でも考えていかないといけないと思っているので学校にどんどん顔をだしていただければと思っている。

うらフェスに今年は有志ということで、教育課程となるときちっと計画を立てて学校の授業時間の中でなかなかやることも狭まれてくるが、今回は前回の実績をもとに有志を募って参加させていただく。また、港まつりの方は学習の時間で取り組んで参加する。

(F 委員)

浦河町のPTA 連合会研修会の11月で行われた気象予報士の菅井さんの公演のようなのを聞かせていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(G 委員)

学校として何ができるかなと考えたときに、うらかわかレッジで浦河高校の先生たちが開放講座をしているが、うちの浦河赤十字看護専門学校の先生たちの赤十字病院のいろんな救護活動に参加している先生やケアの指導もできる先生、災害の時に特化した高齢者のケア、家庭の中でどういうふう支援できるとか、そういうことを指導できる、うちの先生方どれかあるので、何かうちの学校を使ってもいいので、こちらでも何かできるかとそういうことで参加させていただけるかと。

三年くらい前から浦河高校の学校祭のときに、うちも学校祭をしていたが、浦高の方に来ていただきたいということで日程をずらした。それが9月の第一土曜日で今年の9月1日なのだが、こういう行事が決まっているとうちのカリキュラムもあるので、今年はちょっと難しいが、そういうことに合わせてずらすということもあらかじめ教えていただくと、参加させていただけるかなと思う。

8月4日にオープンスクールを予定している。オープンスクールは一般的に進路を考えている

高校生などを対象としたオープンスクールとみなさんは思う形だが、うちはオープンということで町民の方にも来ていただいて、同じような体験をしていただくために PR しているが、先週の土曜日に行って 4 人の方に来ていただいた。学校の中を見ていただいて看護学生がどんなこと勉強しているのか、ということを知っていただく機会をこれからもつくっていきたい。

(H 委員)

すごくいろいろないい機会がたくさんあり、行きたい気持ちはあるが、仕事の関係でいけなかったりするのが多いなと感じている。せっかくこうやって事前に日程がわかるようなら、いろんなところで体験なり鑑賞させてもらうなり看護師さんたちのどのようなことをしているかを知ることができたらなど。

(I 委員)

勤労青少年ホームの総会は、いつも同じ役員が集まってマンネリ化というかそういう状況が何年も続いていて、何か打開策を教えて欲しいなど。

(A 委員)

以前にふれあい会館で東町の住民が一泊防災体験講座というので、その時妊婦であったが、なかなか参加できることではないので上の姉と参加してほんとによかったなど。阪神大震災の防災センターの人に来てもらいワークショップをして、段ボールで体育館で寝たりして子どもたちはキャンプ気分で盛り上がっていたが、それが次の日から大事なことだと身を持って知ったことがわかった。講演会もよいが、できれば各地域で、堺町とか緑町とかで看護学校で看護師さんをめざしている方で、またぜひ地域防災キャンプをやって欲しいと思う。

(J 委員)

いま 88 歳の姑と暮らしているが、防災とかなにかあったときに役に立つ情報や地域で行動できることがあったら教えて欲しい。

(K 委員)

4 月末に、東町連合自治会という組織で、その中で主に災害時の対応で一番最近やっているのは皆さん集まって白泉の避難所の運営という形でやっているが、救護活動が非常に大切で、役場を通じて町の方から交渉してもらって研修会をやっているが、地元でそういう教えていただける方がいるのであればそういう身近な防災研修会を毎年 11 月くらいに毎年行っているの今後、検討して相談したい。

北海道の事業で一日防災学校というのがあり、今年度全道に広げていくということで各管内 3、4 校の小学校から一日をかけて防災について勉強するというので、日高管内は新冠小学校、浦河小学校、えりも小学校で 9 月 28 日に一日かけて防災について学ぶということで実施する。防災学校ということで災害発生時、住民に避難とか呼びかけるとか、また実際に資格をもっているプロの検定が日高管内に 150 名くらいいるが、5 月に全日高防災マスターの協会を設立して、その中でえりも小学校が今言われている地域防災、日高振興局の防災担当の方から頼まれて避難

のお手伝いといった部分を実際に活動しているので、ぜひそういう機会があれば声掛けしていただいて、またお手伝いさせていただきたいと思っている。防災マスターとは互いを助け合う、消防のOB、自治会でそういった知識を持っている人を対象に研修会をしていく。

(B 委員)

きょうは日高振興局主催の地域づくり委員会というところで手話の勉強会にいった。そこで手話で子どもたちとコミュニケーションをとればいいなと、子どもたちもできたらいいなと思った。障害があってもなくても、ことばで表現できるというのが大事で、地震とか災害があったとき、よりいっそうそういうのが重要なのではないかなと。

浦河町の子どもたちは非常に挨拶が気持ちいい、そういう子どもたちの声に癒されている。

(L 委員)

浦河文化協会は、昭和 33 年に設立をして 60 周年終えたばかりです。団体数が 45 団体から減少し、体力促進ということで残っているが、人口減少の折、小さなことから育てようと四苦八苦している。今年の 10 月 13、14、20、21 日には町民芸術祭があるので、文化協会の会員のみとなるが、町内全員が参加できるというそういったお祭りが、趣味などの作品が展示をしていただいで楽しんでいただけたらと思っている。あと、文藝うらかわだが、昭和 57 年に第 1 巻を発行して、いまは 37 巻まで発行している。その部分に関して、特別企画として前回までは俳句だったところを今回と来年は短歌にして、すそ野を広くしたいと思っている。また、ほかにも小説や随筆も募集している。